

亥の子

いのこ餅 は、「亥の子餅」又は「亥猪餅」とも書きます。旧暦十月の亥の日に餅をついて食べると万病を払うといわれています。又、多産にあやかるともいわれており、これは、「亥」つまりイノシシは何でも食べる多食動物で、一度に10匹から15匹くらいの子どもを産むところからきたものと思われます。

中南部地域で作られるいのこ餅は、粘りの多い小芋（里芋）を貴重な餅米の代わりに利用して作られるぼた餅で、慎ましやかなお母さんの知恵が垣間見えます。

大和では味の良い小芋がたくさん採れるので、ハレ・ケの日を問わず小芋を使った料理が食卓に上ります。

東吉野地域では、亥の日に亥の神様である弁天様にお供えをするのですが、大きな餅を美人の弁天様が食べるのは恥ずかしいだろうと、押し入れの中に供えるという楽しい風習が残っていると聞いたことがあります。

